

平成27年度和歌山県文化功労賞

まつもと みょうけい かつあき
松本 明慶（本名 松本 勝明）

住 所 京都府京都市
出身地 京都府京都市
生年月日 昭和20年6月23日

◎ 業績及び経歴

昭和20年京都市に生まれる。17歳のときに佛師を志し、佛像彫刻を始める。昭和39年、当時佛師の最高峰にいた野崎宗慶師に弟子入り。日々修業を重ね、昭和54年に朝日新聞社・京都朝日会館画廊にて初の個展を開催。昭和55年には、京都佛像彫刻展において京都市長賞を受賞する。昭和56年には、広島県福王寺に氏が初めて大佛づくりに挑戦した不動明王像を納めた。以後全国に計19体の大佛を制作する。

昭和60年には日本橋三越本店にて個展を開催。昭和63年には、フランス国立ギメ美術館（ルーブル美術館東洋別館）収蔵の佛像100体を修復するなど、佛師として精力的に活動を続け、平成17年には京都市に松本明慶佛像彫刻美術館を開館するに至った。この美術館には氏が制作した佛像約150体が展示され、佛像彫刻をこよなく愛する人々の鑑賞の場であると同時に佛像彫刻を志す人々の勉強の場ともなっている。

和歌山県においては、平成14年に高野山金剛峯寺に恵果阿闍梨尊像を奉納、平成19年には紀三井寺に総高12メートルにもなる総金箔張の十一面千手観音菩薩立像を納めた。昨年には172年ぶりの高野山壇上伽藍の中門再建に合わせて、焼失していた増長天像と広目天像を約2年の歳月をかけて制作するとともに、持国天像と多聞天像の修復も行った。高野山開創1200年の節目を機に四天王が揃うことになり、和歌山県の魅力を発信していくうえで、氏の貢献は非常に大きいものがある。

氏は現在40人をこえる弟子を抱え、技の伝承にも力を注いでいる。氏の長年にわたる功績は大きく、本県に対する貢献も誠に多大である。



■ 現 在
大佛師

◆ 主な表彰歴等

昭和55年 京都佛像彫刻展 京都市長賞
(以後京都市長賞8回)
昭和60年 京都佛像彫刻展 京都府知事賞
(以後京都府知事賞10回)
平成23年 京都府文化功労賞
平成25年 京都市文化功労賞
平成26年 京都新聞社文化学術賞